

学校法人御船学園 令和6年度事業報告書

1. 法人の概要

I 法人の基本情報

| | |
|------------|---|
| 法人の名称 | 学校法人御船学園 |
| 所在地 | 熊本県上益城郡御船町大字滝川字東原 1658 番地 |
| 電話番号 | 096(282)0506 |
| FAX番号 | 096(282)7800 |
| メールアドレス | info@heisei-music.ac.jp |
| ホームページアドレス | https://www.heisei-music.ac.jp/ |
| 設置する学校名 | 平成音楽大学 |

II 建学の精神

建学の精神 九州から音楽文化を発信する。

大学の目的 本学は、教育基本法及び学校教育法の精神に則り、次の項目の達成に努めることを目的とする。

4つの基本理念

- ①音楽芸術の真理の探究
- ②創造性豊かな心を持つ人間形成
- ③地域社会の音楽文化の発展に寄与する人材育成
- ④福祉の進展に寄与する有為な人材の育成

音楽学部音楽学科

音楽芸術の学修を通じて情操を高め、豊かな感受性と和の心を涵養し、想像力と健全な身体を養成すると共に、本学が音楽文化の発信地となることを目指す。

音楽学部未来創造学科

音楽のもつ美的情操や心理的情緒等の効用による感性を磨き、専門分野の研究・修養に励みながら、新しい時代を見据えて自ら創造的に未来を切り拓いていく人材育成を目指す。

音楽学部こども学科

乳幼児期に音楽が与える感性、美的情操や心理的情緒等の効用につき専門的に教育・研究し、保育園や幼稚園において適宜、適切に音楽を提示できる保育士、幼稚園教諭を育成することを目的とする。

| | |
|------------------|---|
| 昭和 47(1972)年 3月 | 学校法人御船学園設立認可 |
| 4月 | 初代理事長に出田憲二就任 熊本音楽短期大学開学 音楽科（入学定員：声楽専攻 30、器楽専攻 30 総定員 120） 初代学長に出田憲二就任 |
| 昭和 48(1973)年 4月 | 教職課程開設 熊本音楽短期大学専攻科開設 |
| 昭和 50(1975)年 8月 | 運動場用地購入、平屋建て寄宿舍落成 |
| 昭和 51(1976)年 4月 | 音楽科定員増員 （入学定員：声楽専攻 30、器楽専攻 70 総定員 200） |
| 7月 | 2号館校舎落成 |
| 昭和 53(1978)年 2月 | 女子寮5階建落成 |
| 昭和 56(1981)年 2月 | 体育館兼演奏ホール落成 |
| 昭和 59(1984)年 9月 | 3号館校舎落成 |
| 昭和 60(1985)年 1月 | 4号館校舎落成 |
| 昭和 62(1987)年 10月 | 阿蘇研修所落成 |
| 平成 9(1997)年 9月 | 熊本音楽短期大学 25周年記念 ニューヨーク・カーネギーホール公演 |
| 平成 11(1999)年 3月 | 第1回九州音楽コンクールを開催 |
| 平成 12(2000)年 12月 | 平成音楽大学設置認可 初代学長に出田敬三就任 音楽学部音楽学科教職課程認可（中学・高校一種免許（音楽）） 音楽療法士（2種）：全国音楽療法士養成協議会認定 |
| 平成 13(2001)年 4月 | 平成音楽大学開学 音楽学部音楽学科（入学定員 100人） |
| 平成 14(2002)年 4月 | 全国音楽療法士養成協議会 音楽療法士（1種）認定校 指定 ミュージック・プロフェッショナルコース設置 |
| 平成 17(2005)年 3月 | 音楽学部幼児音楽教育学科指定保育士養成施設指定 音楽学部幼児音楽教育学科教員免許課程認可 （幼稚園教諭一種免許状） 音楽専攻科教員免許課程認可 （中学校・高等学校教諭専修免許状（音楽）） |
| 4月 | 学校法人御船学園理事長に出田敬三就任 音楽学部幼児音楽教育学科開設（入学定員 30人） 音楽学科入学定員変更（100人→70人） 音楽専攻科（入学定員 10人）開設 |
| 平成 18(2006)年 7月 | 音楽棟（CREA-M棟）落成 |
| 平成 19(2007)年 10月 | コミュニティーセンター落成 |
| 平成 21(2009)年 11月 | 全国音楽療法士養成協議会 音楽療法士（2種）認定校 指定 |
| 平成 22(2010)年 6月 | 韓国新羅大学校芸術大学との姉妹校提携 |
| 10月 | 熊本市キャンパス・サテライトステージ設置 |

| | |
|------------------|--|
| 平成 24(2012)年 4 月 | 附属音楽教室開講 |
| 平成 28(2016)年 3 月 | 幼児音楽教育学科を「こども学科」に名称変更 |
| 4 月 | 女子寮を閉鎖 |
| 6 月 | 熊本地震にて大規模な被災 |
| 平成 29(2017)年 4 月 | 新駐車場完成 |
| | 入学定員を変更 |
| | 音楽学科 70 人 → 60 人 |
| | こども学科 30 人 → 40 人 |
| 11 月 | 御船町と連携協力に関する包括協定締結 |
| 平成 30(2018)年 3 月 | 新学食・カフェ棟 MUSIC PARK 落成 |
| 令和元(2019)年 7 月 | 中国ハルビン学院と協力交流協定締結 |
| 8 月 | 新本館、トータルミュージックスタジオ完成 |
| | 旧本館復旧工事完了 |
| 令和 2(2020)年 3 月 | 公益財団法人熊本県立劇場と学校法人御船学園平成音楽大学の連携に関する包括協定 |
| 9 月 | 熊本市キャンパス・サテライトステージを閉鎖 |
| 令和 3(2021)年 4 月 | 学校法人御船学園理事長に出田雄人就任 |
| 令和 4(2022)年 4 月 | 入学定員を変更 100 人 → 80 人 |
| | 音楽学科 60 人 → 50 人 |
| | こども学科 40 人 → 30 人 |
| 令和 5(2023)年 4 月 | こども学科を「未来創造学科」に名称変更 |
| 令和 6(2024)年 4 月 | 学長に出田雄人就任 |

IV 設置する学校・学部・学科等

| 設置する学校 | 学部 | 学科 | コース |
|--------|------|-----------------|--|
| 平成音楽大学 | 音楽学部 | 音楽学科 | 声楽、ピアノ、管弦打楽、作曲 ミュージックパフォーマンス 電子キーボード、サウンドデザイン 音楽教育、音楽療法 |
| | | こども学科 未来創造学科 | - こども文化、声優 |

| | | |
|--|------|--|
| 平成音楽大学 音楽専攻科 | 音楽専攻 | 声楽、ピアノ、管弦打楽 作曲、ミュージックパフォーマンス 電子キーボード、サウンドデザイン 音楽教育、音楽療法 |
| 平成音楽大学 ミュージック・プロフェッショナルコース (M.P.C.) | | 声楽、ピアノ、管弦打楽、作曲 電子キーボード、サウンドデザイン |

V 学校・学部・学科等の入学定員、学生数の概要

(令和6年5月1日)

| 学部等 | 学科 | 入学定員 | 入学者数 | 収容定員 | 現員数 |
|-----------------------------------|-----------------|---------|---------|------|-----|
| 音楽学部 | 音楽学科 | 50 | 29 | 210 | 134 |
| | 未来創造学科 こども学科 | 30 — | 25 — | 130 | 102 |
| | 計 | 80 | 53 | 340 | 236 |
| 音楽専攻科 | | 10 | 6 | | |
| ミュージック・プロフェッショナルコース (M. P. C.) | | — | 0 | | |

VI 収容定員充足率

(各年度5月1日)

| | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 収容定員充足率 | 51.3% | 53.8% | 60.5% | 63.1% | 69.4% |

現員数(在籍学生数)÷収容定員(全学年の定員数)

VII 役員の概要

理事 現員8名(定員8名)

(令和7年3月31日)

| 氏名 | 選任 条項 | 就任年月 | 常勤・非 常勤の別 | 主な現職等 |
|-------|----------|----------|--------------|---------------------|
| 出田 雄人 | 1 | 平成29年12月 | 常勤 | (学)御船学園理事長、平成音楽大学学長 |
| 大島 紀雄 | 2 | 平成21年4月 | 非常勤 | パールクローズ(同)営業部 |
| 亀井 裕子 | 2 | 令和6年4月 | 常勤 | 平成音楽大学未来創造学科長 |
| 出田 節子 | 3 | 令和3年1月 | 非常勤 | (医)出田会理事長 |
| 片桐 英夫 | 3 | 平成29年12月 | 非常勤 | (株)寺原自動車学校代表取締役社長 |
| 米澤 房朝 | 3 | 平成30年12月 | 非常勤 | (株)ヨネザワ代表取締役会長 |
| 浦上 仁史 | 3 | 令和3年1月 | 常勤 | (学)御船学園法人事務局長 |
| 宇都 香織 | 3 | 令和6年4月 | 常勤 | 平成音楽大学事務局長 |

監事 現員2名(定員2名)

| | | | |
|-------|----------|-----|-------------|
| 沖田 昌史 | 平成5年12月 | 非常勤 | (福)南苑会理事 |
| 中田 泉 | 平成29年12月 | 非常勤 | 元平成音楽大学事務局長 |

VIII

評議員の概要

評議員 現員 17 名 (定員 17 名)

(令和 7 年 3 月 31 日)

| 氏名 | 選任 条項 | 就任年月 | 主な現職等 |
|---------|----------|--------------|-------------------------|
| 出田 雄人 ※ | 1 | 平成 29 年 12 月 | (学)御船学園理事長、平成音楽大学学長 |
| 宇都 香織 ※ | 1 | 平成 28 年 4 月 | 平成音楽大学事務局長 |
| 永脇 信敬 | 1 | 令和 2 年 12 月 | 平成音楽大学総務部長 |
| 富永 若子 | 2 | 平成 8 年 12 月 | ピアノ指導者、前同窓会会長 |
| 古川 寛子 | 2 | 平成 31 年 3 月 | (一社)スタディライフ熊本代表理事、同窓会会長 |
| 島田 誠也 | 3 | 令和 5 年 4 月 | 御船町秘書政策室室長 |
| 福島 則義 | 3 | 平成 23 年 4 月 | 保護者後援会名誉会長 |
| 甲斐 田鶴子 | 3 | 平成 17 年 12 月 | 御船町文化協会事務局長 |
| 柴田 和男 | 3 | 平成 29 年 12 月 | (株)オオバ取締役 |
| 大島 紀雄 ※ | 3 | 平成 12 年 12 月 | パールクローズ(同)営業部 |
| 村田 靖弘 | 3 | 令和元年 8 月 | (株)寺原自動車学校職員 |
| 野中 建光 | 3 | 令和元年 8 月 | 坂本孝臣税理士事務所副所長 |
| 山本 浩章 | 3 | 令和元年 8 月 | (株)山本ダンボール代表取締役社長 |
| 亀井 裕子 ※ | 3 | 平成 28 年 4 月 | 平成音楽大学未来創造学科長・こども学科長 |
| 河津 悦雄 | 3 | 令和 2 年 12 月 | 河津酒造(株)代表取締役会長 |
| 浦上 仁史 ※ | 3 | 令和 6 年 4 月 | (学)御船学園法人事務局長 |
| 柏尾 剛徳 | 3 | 令和 6 年 4 月 | 平成音楽大学音楽学科長 |

※は理事兼任者

IX

教職員の概要

(令和 6 年 5 月 1 日)

| | | 計 | 教授 | 准教授 | 講師 |
|-----------------|-----------------|----|----|-----|----|
| 本務教員数 (専任教員) | 音楽学科 | 10 | 6 | 1 | 3 |
| | こども学科 未来創造学科 | 7 | 3 | 1 | 3 |
| | 計 | 17 | 9 | 2 | 6 |
| 兼務教員数 (非常勤教員) | | 63 | | | |
| 事務職員数 | | 17 | | | |

平均年齢

本務教員(専任教員)56.9 才 [前年比-2.7 歳]、事務職員 42.8 才 [前年比±0 歳]

2. 事業の概要

I 平成音楽大学の目的

大学の目的

本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、広く知識を授けるとともに、音楽芸術の真理の探究と技術の練磨を教授研究し、創造性豊かな心を持つ人間形成を図る。もって人類の文化と福祉の進展に寄与する有為な人材の育成を目的とする。

4つの基本理念

- ①音楽芸術の真理の探究
- ②創造性豊かな心を持つ人間形成
- ③地域社会の音楽文化の発展に寄与する人材育成
- ④福祉の進展に寄与する有為な人材の育成

教育及び研究の目的

音楽学部音楽学科

音楽芸術の学修を通じて情操を高め、豊かな感受性と和の心を涵養し、想像力と健全な身体を養成すると共に、本学が音楽文化の発信地となることを目指す。

音楽学部未来創造学科

音楽のもつ美的情操や心理的情緒等の効用による感性を磨き、専門分野の研究・修養に励みながら、新しい時代を見据えて自ら創造的に未来を切り拓いていく人材育成を目指す。

音楽学部こども学科

乳幼児期に音楽が与える感性、美的情操や心理的情緒等の効用につき専門的に教育・研究し、保育園や幼稚園において適宜、適切に音楽を提示できる保育士、幼稚園教諭を育成することを目的とする。

II 学士課程教育における3つの方針

学士課程教育において、育成する人材像や教育上の目的に基づき、教育上の3つの方針（ポリシー）を定めている。これは「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」、「カリキュラムポリシー（教育課程編成と実施の方針）」、「アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）」からなるもので、本学の教育目的、教育目標の実現に向けて、どのような学生を受け入れるか、また卒業までに身につけるべき能力をどのようなプログラムを通じて学んでいくかを示している。

ディプロマポリシー

| | |
|---|--|
| <p><音楽学部> 下記の資質・能力を修得し、それらを総合的に活用できる人に学位（学士）を与える。 （学びに向かう力、人間性）（生涯学習）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 音楽、文化、社会に対して、さまざまな角度から関心を持ち、生涯にわたって、自主的、自律的に学修することができる。 <p>（知識）</p> <ol style="list-style-type: none"> 2 音楽、文化、社会についての幅広い知識を身に付けている。 <p>（思考・判断）</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 音楽を通してものごとを多様な観点からとらえ、課題についてさまざまな角度から考察し、適切な判断をすることができる。 <p>（技能）</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 音楽の実践的技能を身に付け個性豊かな表現や独創的な創作ができる。 <p>（表現）</p> <ol style="list-style-type: none"> 5 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や創作物、演奏という形で表現できる。 <p>（社会参加の意識）</p> <ol style="list-style-type: none"> 6 大学で学んだことをもとに、地域社会の音楽文化の発展や福祉の進展に寄与する態度を持つ。 | |
| <p><音楽学科> 下記の資質・能力を修得し、それらを総合的に活用できる人に学位（学士）を与える。 （学びに向かう力、人間性）（生涯学習）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 音楽、文化、社会に対して、さまざまな角度から関心を持ち、よりよい音楽表現を求めて、自主的、自律的に学び続けることができる。 <p>（知識）</p> <ol style="list-style-type: none"> 2 音楽、文化、社会を関連付けて理解し、専門分野に関する知識を身に付けている。 <p>（思考・判断）</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 音楽を通してものごとを多様な観点からとらえ課題解決に向かって、他者の意見を取り入れながら自らの考えを深め、適切な判断をすることができる。 <p>（技能）</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 専門分野における確かな基礎力を身に付け、実践の場で活かすことのできる幅広い技能を備え、創造性豊かな表現や創作ができる。 <p>（表現）</p> <ol style="list-style-type: none"> 5 音楽に関する研究・調査の結果を踏まえ、自らの思いや意図・構想を専門分野の技能を用いて、内容が相手に伝わるように | <p><未来創造学科> 下記の資質・能力を修得し、それらを総合的に活用できる人に学位（学士）を与える。 （学びに向かう力、人間性）（生涯学習）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 音楽、文化、社会に対して、さまざまな角度から関心を持ち、よりよい未来の創造に向けて自主的、自律的に学び続けることができる。 <p>（知識）</p> <ol style="list-style-type: none"> 2 音楽、文化、社会を関連付けて理解し、幼児教育および声優に関する専門的な知識を身に付けている。 <p>（思考・判断）</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 音楽を通してものごとを多様な観点からとらえ、創造的に深く思考し、適切な判断をすることができる。 <p>（技能）</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 専門分野における確かな基礎力を身に付け、実践の場で活かすことのできる幅広い技能や態度を備えている。 <p>（表現）</p> <ol style="list-style-type: none"> 5 保育・幼児教育や声優に関する研究・調査の結果を踏まえ、コミュニケーション力やパフォーマンス力を備えた豊か |

| | |
|--|--|
| <p>表現できる。 (社会参加の意識)</p> <p>6 大学で学んだことをもとに、地域社会の音楽文化や福祉に関心を持ち、積極的に社会貢献をしようとする態度を持つ。</p> | <p>な表現ができる。 (社会参加の意識)</p> <p>6 大学で学んだことをもとに、社会、福祉、文化に関心を持ち、積極的に社会貢献をしようとする態度を持つ。</p> |
|--|--|

カリキュラムポリシー

| | |
|---|---|
| <p><音楽学部></p> <p>卒業の認定に関する方針に掲げる資質・能力を育成するために、下記の方針に従って、教育課程を編成・実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「基礎科目」「展開科目」「発展・応用科目」の3種類の科目群を配置する。 2 専門実技科目や教養科目の他に「教職に関する科目」「音楽療法に関する科目」「保育士養成に関する科目」を配置する。 3 演奏会、発表会および社会貢献活動などを自主的、主体的に計画・運営する機会を多く設ける。 | |
| <p><音楽学科></p> <p>卒業の認定に関する方針に掲げる資質・能力を育成するために、下記の方針に従って、教育課程を編成・実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「基礎科目群」「展開科目群」「発展・応用科目群」において個性豊かな表現や個に応じたきめ細やかな教育、音楽を用いた効果的な対人援助ができるような内容を編成する。 2 音楽性を高め、豊かな人間性を培う実技科目や教養科目とともに、指導者、対人援助者としての確かな専門性を身に付けるために、「教職に関する科目」「音楽療法に関する科目」を配置する。 3 音楽性や専門性を伸ばし、社会貢献の意識を高めるために、演奏会や発表会およびメディアや教育・療法の現場などでの多様な活動の場を設定する。 | <p><未来創造学科></p> <p>卒業の認定に関する方針に掲げる資質・能力を育成するために、下記の方針に従って、教育課程を編成・実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「基礎科目群」「展開科目群」「発展・応用科目群」において個に応じたきめ細やかな保育援助や声優としての表現ができるような内容を編成する。 2 音楽性を高め、豊かな人間性を培う実技科目や教養科目とともに、保育者および声優としての確かな専門性を身に付けるために、「教職に関する科目」「保育士養成に関する科目」「声優養成に関する科目」を配置する。 3 音楽性や専門性を伸ばし、社会貢献の意識を高めるために、演奏会や発表会およびメディアや保育現場などでの多様な活動の場を設定する。 |

アドミッションポリシー

| |
|--|
| <p><音楽学部></p> <p>以下のような人を入学者として受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 音楽を愛好し、社会における音楽の必要性や重要性を理解している人 2 自らの意志で行動し、自主的・自律的に学修することに意欲のある人 3 高等学校までの学習課程で、身に付けなければならない基本的な知識・技能を身に付けている人 4 大学での学修を通して、専門的な知識・技能、高度な思考力・表現力を修得することに意欲 |
|--|

| のある人 | |
|--|--|
| <p><音楽学科> 以下のような人を入学者として受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 音楽文化を探究し、音楽のよさ、美しさを伝えることに関心や意欲のある人 2 音楽美を探究したり、音楽を用いて人と関わったりすることに、意欲を持って自ら学ぼうとする人 3 高等学校までに習得する基本的な知識・技能や音楽に関する基礎的な知識・技能を身に付けている人 4 大学での学修を通して、次の力を習得することに意欲のある人 <ol style="list-style-type: none"> ①音楽表現や音楽教育・音楽療法に関する専門的な知識・技能 ②深く思考し的確に判断する力 ③思いや意図を音や音楽、言葉を使つて的確に表現する力 | <p><未来創造学科> 以下のような人を入学者として受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 多様な音楽の美しさや楽しさを受容し、理解することに意欲のある人 2 多様な表現方法や人との関わり方を意欲的に自ら学ぼうとする人 3 高等学校までに習得する基本的な知識・技能を身に付けている人 4 大学での学修を通して、次の力を習得することに意欲のある人 <ol style="list-style-type: none"> ①幼児教育や声優に関する専門的な知識や技能 ②深く思考し的確に判断する力 ③音楽や身体表現、言葉を使つて豊かに表現する力 |

3つの方針（ポリシー）に基づき機関レベル、教育課程レベル、授業科目レベルの3段階で学習成果等を査定・評価し検証するため、令和2年度から学習成果の評価の方針（アセスメントポリシー）を定めた。

アセスメントポリシー

| | | | | |
|---|-------|--|---|--|
| 平成音楽大学においては、3つのポリシーに基づき教育の質の保証と不断の改善に取り組むために、次表のように、機関レベル・教育課程レベル・授業科目レベルの3段階で学生の学修成果等を査定・評価し、検証する方法を定める。 | 段階 | 入学段階 アドミッション ポリシーを満 たすかどうか | 在学中（単位認定） カリキュラムポリ シーに則つて学修 が進められている かどうか | 卒業時（卒業後） ディプロマポリシ ーを満たす人材に なったかどうか |
| | 機関レベル | ○各種選抜試験 ○調査書等の記 載内容 ○面談、志願理 由等 | ○退学率 ○休学率 ○学生生活満足度 調査 ○コンクール等 参加・成績状況 ○課外活動状況 | ○学位授与数 ○卒業・修了率 ○就職状況 ○学生生活満足度 調査 ○卒業年次生意識 調査 |
| 1 機関レベル 学生の卒業・修了率、休・退学率、卒業・修了後の進路決定状況、各種アンケート調査結果から、学修成果の達成状況を検証する。 | | | | |

| | | | | |
|---|----------------|---|---|--|
| <p>2 教育課程レベル 所定の教育課程における卒業要件達成状況(単位取得状況、GPA・成績分布状況、卒業研究等)、資格取得状況等から、学修成果の達成状況を検証する。</p> | <p>教育課程レベル</p> | <p>○各種選抜試験 ○調査書等の記載内容 ○面談、志願理由等</p> | <p>○GPA ○単位取得状況 ○成績分布 ○出席状況 ○学修ポートフォリオ ○授業評価アンケート ○学生生活満足度調査 ○コンクール等参加・成績状況</p> | <p>○学位授与数 ○GPA ○単位取得状況 ○卒業演奏・卒業研究・卒業論文 ○資格・免許等取得状況 ○学修ポートフォリオ ○学生生活満足度調査</p> |
| <p>3 授業科目レベル シラバスに示された到達目標に対する評価及び授業評価アンケート結果等から、授業科目毎の学修成果の達成状況を検証する。</p> | <p>授業科目レベル</p> | | <p>○成績評価 ○単位取得状況 ○科目合格状況 ○成績分布 ○出席状況 ○授業評価アンケート</p> | |

III

管理・運営計画

平成音楽大学の使命・目的を達成するため、令和2年度から令和6年度までの5ヶ年による中期計画を策定・実行した。この中期計画に基づいて年度ごとの事業計画と予算を作成し、PDCAサイクルを機能させて使命・目的の実現のため継続的な努力を行った。

理事の役割の明確化

理事定数8人のうち学内理事が4人、外部理事が4人となっている。そのため学外からの視点による意見を取り入れやすい状態である。令和6年度は理事会を7回開催し、理事および監事の出席状況は92.6%と良好であった。また学内理事4人による常勤理事会では、日々の軽微な課題を解決することができた。各理事の役割を総務担当、財務担当、学事担当と明確に割り当てて法人の業務を行った。

監事機能の充実

監事は会計年度始めに監査計画書を作成し、これに沿って法人の業務、財産の状況、理事の業務執行の状況について監査を行った。監査にあたっては会計監査人と定期的に情報交換を行うとともに、関連部署の担当者より状況を聴取するなどして充実させた。

評議員会機能の充実

予算・事業計画をはじめとする法人の業務に関する重要事項について、理事会における決議の前に、理事長があらかじめ評議員会の意見を聴いている。また、決算及び事業の実績について、会計年度終了後2月以内に理事会における決議を経た後、評議員会へ報告し意見を求

めている。令和6年度は4回開催し、評議員の評議員会への出席状況は86.4%と概ね良好であった。

内部質保証

内部質保証は「大学自らの自己点検・評価」と「認証評価機関による認証評価」による。大学における教育研究の質保証は、大学と文部科学省、及び認証評価機関の三者によって担うことになる。

「大学自らの自己点検・評価」は、自己点検・評価委員会、FD委員会とIR室が連携し、おもに「学生による授業評価アンケート」「学生満足度調査」「卒業年次生への意識調査」の集計結果の分析、アドミッションポリシーを踏まえた入学者選抜結果の検証、GPA分布の分析等により行った。

7年に1度受審する「認証評価機関による認証評価」は令和4年度に受審して認定を受けている。日本高等教育評価機構が定める大学評価基準への適合認定を受けたことは評価書とともにホームページにおいて公表している。認定の際に改善が必要と評価された事項についても対応を完了した。

外部評価委員会

自己点検・評価と内部質保障に資するために平成音楽大学外部評価委員会を設置している。本学の教育活動に関わりを持ち、日常的に観察しながら客観的に評価できることを条件として、御船町教育長、熊本県立御船高等学校校長、社会福祉法人恵寿会統括施設長らを委員として委嘱している。

会議は9月、3月の2回行い、卒業時意識調査や授業評価アンケート、学生満足度調査等の調査及びその結果に対する評価や、地域における演奏や学習支援等の活動に対する評価を受けて、内部質保証の一環として改善・向上のための役割を果たした。

IV 教育活動

レッスン及び講義

令和6年度は、本学の特徴である個に応じたきめ細やかなレッスンや授業による充実した学修が展開された。レッスン系は個人レッスンからアンサンブル、オーケストラなど多様な学びの場により演奏力の向上に努めた。講義系ではグループ討議等を効果的に取り入れ、深まりのある主体的・対話的な学修が行われた。特別な支援を要する学生に対しては引き続き、対面とオンラインのハイブリッド授業を行うなど多様化する学生へのきめ細かい対応を行った。

演奏活動

10月に吹奏楽演奏会を学内で、12月に恒例である大学挙げての定期演奏会を熊本県立劇場で実施し、出演者である学生たちの達成感と共に、聴衆からも高い評価を得ることができた。さらに各学科・コースごとに次のような学修成果発表の機会を設けた。

- ・ピアノコースによるピアノフェスティバル
- ・管弦打楽コースによる木管アンサンブル、金管アンサンブル、弦楽アンサンブル、打楽器

アンサンブル等の室内楽

- ・作曲、サウンドデザイン、ミュージックパフォーマンスの3コース合同による「音・創造」
- ・声楽コースによるヴォーカルサロンコンサート
- ・未来創造学科・こども学科によるミュージックフェスティバル
- ・声優コースによるミュージカル

学生が自主的に行う公演においても指導教員と大学がサポートし、伸び伸びと演奏活動を繰り広げることができていた。

そのほか学内外の依頼演奏として、学校での音楽鑑賞教室（スクールコンサート）、各種イベント、本学オープンキャンパス内での演奏等、活動は多岐にわたり、1人でも多くの学生に演奏の場を提供し、経験を積ませるという意味でも充実したものとなった。

さらに各種音楽コンクールでも上位入賞者を輩出するようになってきており、今後も引き続き手厚くサポートをしていく計画である。

FD活動

・授業改善のためのアンケート調査

教育目的の達成状況を点検評価するための方法を工夫・開発するため、FD委員会による全開設科目における学生への授業評価アンケートを実施している。令和6年度も教育目的の達成状況を学年ごと、授業ごとに点検・評価するため、前期と後期それぞれに授業評価アンケートを行った。

学生自身の取り組み方についての「出席状況」「授業態度」「事前・事後学修」「シラバス閲覧の有無」、教授方法についての「授業の進め方」「教員の熱意」「説明や助言の適切さ」「質問への対応」「話し方の適切さ」「創意工夫」「授業内容に関する興味・関心や視野の広がり」を質問し、最後に「授業への理解度・満足度」を問うもので、要望や感想の自由記述欄も設けている。

授業評価アンケートの結果はWEBページで公開している。また、各授業担当者は授業改善計画を作成して授業改善に取り組んでいる。

・授業公開

令和6年度は音楽学科と未来創造学科（こども学科）それぞれが2つの授業を選定し、授業改善の視点として「主体的・対話的で深い学びの実現」「ICTの効果的な活用」を挙げ、各学科所属教員が当該授業を参観する授業公開を実施した。参加者は配付された授業プログラムにより参観し、終了後の授業検討会では指導の意図や工夫点と学生の反応・様子をもとに、改善点について意見交換を行った。

V 学修支援体制

奨学金制度

入学者選抜の成績優秀者に対して行う特待生制度、在学生の成績優秀者に対する学長奨励生等のほか経済的理由で就学困難な者に対する経済支援奨学金制度において令和6年度は1,317万円の奨学支援を行った。

内訳

| 制度別 | 対象者 | 奨学金額 |
|---------------|----------------------|--------|
| 特待生制度 | 音楽学科 18 人、未来創造学科 4 人 | 570 万円 |
| 学長奨励生・特別奨学生制度 | 音楽学科 8 人、未来創造学科 2 人 | 90 万円 |
| 音楽専攻科入学金免除 | 音楽専攻科 6 人 | 120 万円 |
| 経済支援制度 | 音楽学科 5 人、未来創造学科 5 人 | 537 万円 |

相談室、学校医・養護教諭

健全で快適な学生生活をサポートするために相談室を設置し、専門のカウンセラーと専任教員がその任にあたっている。また学校医や養護教諭にも常時相談できる体制を整えている。年度初めにはUPI（精神健康調査）を行ってそれぞれの学生に応じた対応をしている。令和5年度は相談件数が89件で、令和6年度は69件であった。昨年度に比べ、前期の相談件数が減ったため総数が減少した。後期は内容として「進路・就職」の割合が増えていることから、後期になるにつれ進路について考える学生が増えていることが考えられる。

| | 相談件数 | 相談する手段（割合） | 相談内容（割合） |
|----|------|----------------|-------------|
| 前期 | 27 | 対面 67.0% | 心身健康 37.5% |
| | | 電話 33.0% | 対人関係 25.0% |
| | | LINE、メール なし | 進路・就職 0% |
| | | | 家庭・生活 6.2% |
| | | | 修学 31.3% |
| 後期 | 42 | 対面 47.6% | 心身健康 48.8% |
| | | 電話 26.2% | 対人関係 16.3% |
| | | LINE、メール 26.2% | 進路・就職 23.2% |
| | | | 家庭・生活 4.7% |
| | | | 修学 7.0% |

キャリア支援

学生のキャリアサポートのために説明会や相談会を当初の計画通りに実行した。

a. 全学年に進路希望調査を実施（4月）

b. 就職委員による学生への個人面談の実施（7月、11月）

キャリア講座の実施

- ・株式会社リクルートによる就職支援講座/3,4年対象（5月）
（就職活動に向けての自己分析と自己PRの作成）
- ・株式会社マイナビによる就職支援講座/1,2年対象（10月）
（就職活動に向けての準備講座）
- ・RENEW株式会社（ミュージカリー）による就活直前講座/3年生以下対象（2月）

c. 企業団体説明会の実施

- ・自衛隊説明会（音楽隊含む）（5月）

- ・株式会社河合楽器製作所・グレード説明会（7月）
- ・熊本県保育協会 保育士・保育教諭就職説明会（7月）
- ・熊本市保育園連盟 保育士・保育教諭就職説明会（9月）
- ・ヤマハ株式会社・グレード説明会（12月）

d. 就職委員による個別面接指導

進路 就職状況（令和6年度卒業生）

| 学科 | 卒業生数 | 進路 | | |
|-------|------|----|----|-----|
| | | 進学 | 就職 | その他 |
| 音楽学科 | 33 | 8 | 23 | 2 |
| こども学科 | 25 | 4 | 20 | 1 |
| 学部計 | 58 | 12 | 43 | 3 |

VI 学生募集、広報戦略

入学定員・収容定員充足率

令和6年度の入学者数は前年度比1名増の54名、在籍学生数は前年度比9名増の236名となった。高等教育の修学支援新制度含む特別補助交付の機関要件を満たすためには収容定員充足率80%を達成する必要がある、その目標達成のために令和4年度より入学定員を80名に引き下げた。これに伴い令和6年度の収容定員は340名、収容定員充足率は69.4%となり、前年度から6.3%上昇した。（令和5年度は63.1%）

学科名変更及び新コース設置

令和5年度からこども学科の名称を未来創造学科と改めて、こども文化コースと声優コースの2コースとした。これは幼児教育・保育をベースとしながらも既存の価値と新しい価値を融合させることによって、従来であれば本学への入学を視野に入れていなかった受験生を取り込んでいくことが狙いである。声優コース新設の背景には昨今のアニメ産業マーケットの拡大、熊本でのポップカルチャーの高揚、また本学既存資産と声優養成ビジネスの相性の良さが挙げられる。こども文化コースで20名程度、声優コースで10名程度、未来創造学科で計30名の入学者を目標としている。

令和6年度はこども文化コース18名、声優コース13名、未来創造学科全体では31名の受験生を迎えることができた。（令和4年度こども文化コース13名、声優コース13名、未来創造学科全体で26名。令和5年度こども文化コース15名、声優コース10名、未来創造学科全体で25名。）

経済支援奨学金制度

本学独自の奨学金として令和5年度より「経済支援奨学金制度」を設置している。これは家庭の経済状況に鑑みて免除額を決定する給付型の奨学金制度である。令和6年度は15名の受験生がこの制度の利用を希望し、選考の結果9名が制度適用対象者となった。（令和4年度9名の受験生が利用希望、7名制度適用対象者。令和5年度5名の受験生が利用希望、5名

制度適用対象者。)

学生募集のための体制構築と広報の強化

以前より課題となっている資料請求数や来校者数の底上げに注力した。資料請求数を増やすために令和3年度より進学業者のネット媒体に情報を掲載した結果、令和2年度に55件だった資料請求が、令和3年度303件、令和4年度649件、令和5年度1,208件、令和6年度には1,406件まで増加した。また、オープンキャンパスについては令和3年度から開催回数を増やしたことにより、令和2年度に188件だった参加者数が令和3年度は258件、令和4年度は438件まで増加した。令和5年度には開催数を見直したことで348件に減少したが、高校3年生の参加者（重複なし）からの受験生は65%となり、前年度の39%から大きく上昇した。令和6年度においては実施回数を増やしたことにより参加者数は377件に増加し、高校3年生の参加者（重複なし）からの受験生は64%となった。

その他、適性診断・平日キャンパス見学・オンライン受験相談などの各種イベントも引き続き実施した。

WEB周りの強化に関して、令和3年度は公式ホームページをフルリニューアルし、ユーザーに与えるイメージの刷新を図った。また令和2年度より更新を再開したInstagramも堅調であり、令和2年度に約400だったフォロワー数は令和3年度に600、令和4年度に800、令和5年度には約1,000、令和6年度に約1,300にまで増加した。

高校訪問は令和3年度から継続して複数の教職員が担当している。「指定校しか選択肢に入っていない生徒がいる」という高校現場の声を受け、訪問の際の新たな取り組みとして指定校の数を増やすことに注力し、令和2年度の380校から令和5年度には720校まで増加させた。その結果、これまで受験実績のなかった完全新規校からの受験が発生した。令和6年度には、熊本県立御船高等学校を特別指定校として同校からの入学生は入学金の全額を免除としたことにより2名の入学者に繋がった。また、学校法人国際学園 星槎大学と教育連携協定を締結し、小学校教諭（一種・二種）免許状および特別支援学校教諭（一種・二種）免許状（5領域）の取得を目指すことができるようになった。令和7年度は全国規模の音楽コンクールにおいて上位入賞を果たした生徒への募集活動を強化することなどを予定しているほか、施設面においても声優コースの稽古等で使用できるスタジオの新設を計画している。

留学生募集についても引き続き力を入れており、令和5年度に4名、令和6年度に12名の受験があった。これによって令和7年度の留学生在籍者数は全学年合計で22名となる。（音楽学部21名、音楽専攻科1名）

VII 社会連携

御船町との包括協定

本学と御船町が、町の社会、経済等の活性化および課題解決に関し、双方の知的・人的資源を活用するとともに、大学と御船町とが相互に連携協力することにより、活力ある豊かな地域社会の形成および発展に寄与することを目的として平成29年に協定を締結している。

定例の連絡調整会議を実施し次の事業を実施した。

令和6年度平成音楽大学と御船町の包括協定連携事業

| No. | 事業名 | 事業内容 | 実施時期 | 備考 |
|-----|--------------|--|----------------|---|
| 1 | 教育支援活動 | 町内の小中学校において、教職課程を履修する2・3年次の学生が学習支援ボランティアの活動を行った。 | 6月～ R7年3月 | 教職課程を履修する18人の学生が、課業日において週1回、1～2時間の学習支援ボランティアを行った。 |
| 2 | 教育支援活動 | みふねジュニアプラスバンドの活動に、教職課程を履修する管弦打楽コースの学生が指導補助のボランティアを行った。 | 6月～ | |
| 3 | 中学校教育実習 | 御船中学校において、教職課程を履修する4年次の学生が教育実習を行った。 | 6月17日～ 7月5日 | 教職課程を履修する4年生1人が3週間の教育実習を行った。 |
| 4 | 中学校授業参観 | 御船中学校において、教職課程を履修する2・3年次の授業の一環として授業参観を行った。 | 6月14日 | 教職課程を履修する2・3年次の学生が音楽科の授業を参観した。 |
| 5 | 保育実習 | 町立保育園において、こども学科・未来創造学科の学生が保育実習を行った。 | 8月26日 ～9月6日 | |
| 6 | 認知症サポーター養成講座 | 町内の特別養護老人ホームにおける介護等体験の一環として、教職課程を履修する3年次の学生が認知症サポーター養成講座を受講し、その資格を得る機会を設けた。 | 9月上旬 | 8月30日～9月3日及び9月6日～9月10日の各5日間に実施した介護等体験において、内容の一環として認知症サポーター講座を受講した |
| 7 | 広報事業 | 御船町の広報誌へ大学の情報を提供して、町民の皆様へ平成音楽大学の活動をPRした。 | 6月～ | |
| 8 | 音楽祭 | 御船町主催で11月中旬に行われる音楽イベントの会場を平成音楽大学に変更して実施した。御船町文化協会主催の文化祭も音楽部門はこの日に合わせて行った。開催日は平成音楽大学の学園祭期間として、学生と町民の交流を図った。 | 10月 26・27日 | 御船町の園児、小学生、中学生、高校生、町文化協会所属合唱団と本学学生の総勢300人となる音楽イベントとなった。 |

演奏会・セミナー等

令和6年度も地域社会の音楽文化の発展に寄与するという学園の目的を達成するため様々な活動を行った。

| 名称 | 実施日 | 会場 |
|--|-----------------------|-------------------------------------|
| ファゴット・オーボエセミナー | 5月25・26日 | 本学 |
| 管弦打楽コース教員による 高校生のための Low Brass (低音金管楽器) セミナー | 6月23日 | 本学 |
| 2024 ピアノフェスティバル | 6月26日 | 本学ベートーヴェンホール |
| 管打楽器レッスン in 沖縄 | 10月6日 | にじいろミュージックスクール 真志喜教室 |
| 第19回熊本暮らし人まつり みずあかり「みずあかりコンサート」 | 10月12日 | 加藤清正公銅像前広場 |
| 吹奏楽・合奏履修者授業研究発表会 「吹奏楽学内演奏会」 | 10月23日 | 本学体育館 |
| 2024 学園祭 平成音大祭 | 10月26・27日 | 本学 |
| Music Fair in Mifune | 10月26・27日 | 本学ベートーヴェンホール |
| 2024 年度音楽制作学生によるライブコンサート『音 創造』 | 10月26日 | 本学ミュージックパーク |
| 第52回定期演奏会 | 12月8日 | 熊本県立劇場コンサートホール |
| 園田健太郎 サウンドデザインコース特別講座 | 12月21日 | 本学サウンドデザインスタジオ |
| 藤本直樹×白井悠介 声優コース特別講座 | 12月21日 | 本学 O.O.スタジオ |
| 赤松林太郎ピアノ特別講座&レッスン | 12月22日 | 本学ベートーヴェンホール |
| 平成音楽大学 声楽コース学生による VOCAL コン서트 vol.18 | R7年 1月22日 | 本学ミュージックパーク |
| 令和6年度平成音楽大学こども学科卒業公演 こどもミュージックフェスティバル | 2月2日 | 市民会館シアーズホーム夢ホール 大ホール (熊本市市民会館) |
| 令和6年度 こども学科・未来創造学科 演奏実技履修者発表演奏会 | 3月11日 | 本学ベートーヴェンホール |
| 令和6年度 卒業・修了演奏会 | 3月12日 | 本学ベートーヴェンホール |
| 第27回九州音楽コンクール | 3月20・22・23・ 24・25日 | 本学ベートーヴェンホール、 O.O.スタジオ、ミュージックパーク |

VIII

校地・校舎の状況

| | 昨年度所有分 | 増加分 | 減少分 | 本年度所有分 |
|----|-----------------------|------------------|------------------|---|
| 校地 | 35,834 m ² | 0 m ² | 0 m ² | 35,834 m ² (内借用 1,162 m ²) |
| 校舎 | 10,882 m ² | 0 m ² | 0 m ² | 10,882 m ² |

3. 財務の概要

別資料「令和6年度財務計算に関する書類」参照